

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	255 盲人ホーム管理運営経費	会計	01	一般会計
		款	03	民生費
		項	01	社会福祉費
		目	04	障害福祉費
基本 施策	05 障がいのある人の自立した生活を支える	細目	200	障害福祉施設管理運営経費
		細々目	51	盲人ホーム管理運営経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	130200	担当者 氏名	中出光美
	名称	障がい福祉課	連絡先 (内線)	22 - 9657 2621

### 事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	あん摩・マッサージ・指圧免許、はり師免許又はきゆう師免許を有する視覚障がい者であって、自営又は雇用されることの困難な者 ※対象件数
成果(どうする)	必要な技術指導が受けられ、治療報酬を得ることにより、自立更生が図られる。
根拠法令・要綱等	伊賀市盲人ホーム条例
開始年度	平成 16 年度
終了年度	平成 22 年度
H21 事業 内容	伊賀市盲人ホームの管理運営 指定管理者: 伊賀市社会事業協会
社会情勢 の変化等	

#### 整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

#### 運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	伊賀市社会事業協会
2 配置人員	人
3 年間運営費	6,000 千円
4 市内の 類似施設	

### 事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			年間延施術数	回	目標 570 実績 446	目標 580 実績 210

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				一般就労を開始した利用者数	人	目標 1 実績 0	目標 1 実績 0

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	6,000	6,000	6,000	6,000				
A の 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金	4,500	4,500	4,500	4,500				
地方債								
その他	0	0	0	0				
一般財源	1,500	1,500	1,500	1,500				
事業投入人件費 (B)	0.1 人	0.1 人	0.1 人	0.1 人	0.1 人	0.1 人	0.1 人	
フルコスト(A)+(B)	6,720	6,720	6,720	6,720				

### 事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	伊賀市盲人ホームは、地域の視覚障がい者の要望により、全国で4番目の施設として設置した施設であり、現在も隣接する上野点字図書館や三重県で唯一の盲業老人ホーム製ノ木園とともに、視覚障がい者福祉の中心となる施設であり、今後も存続が必要である。	○
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
効率性	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

#### 昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	盲人ホームの活動についての啓発を行い、利用者の増加を図る。
【状況】	計画のとおり進んでいない
【詳細】	
昨年度の取組状況	盲学校の卒業予定者等に施設利用の説明を行い、利用者の増加を図った。

### 今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	増田 政美
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	視覚障がい者の生活水準確保のための事業であるので現状維持とする。
現時点における課題、その他	利用者数が減少しているため、利用者数の増加の方法を検討する必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	指定管理者と利用者数増加について協議を行う。